

「転移性脳腫瘍」の60%は肺がんから／東京女子医科大学病院脳神経外科・林基弘教授

3/13(水) 8:00 配信 6 反応アイコン

日刊スポーツ

頭を切らずに治すガンマナイフ治療<7>



定位放射線治療の「ガンマナイフ」は、タイトル通り頭を切らずに脳の疾患を治すことができる治療です。今回は、ガンマナイフが適用となっている脳疾患を紹介しました。今回から、それらがどんな疾患で、ガンマナイフ治療がどのように行われているかを紹介します。

「頭を切らずに治す ガンマナイフ治療」

まずは「**転移性脳腫瘍**」 -。これは、他の臓器にできたがんの脳への転移です。脳転移の原発がんとして多いのは、「**肺がん**」「**乳がん**」「**大腸がん**」の順。特に肺がんは、血液の流れから肺の隣の臓器が脳なので、脳への転移が多い。私たちが治療する脳転移の患者さんの60%は肺がんからの転移です。今日の状況は、がん患者さんの10人に1人が転移性脳腫瘍に罹患（りかん）していますので、決してまれなこととは思わないでください。

そして、早くに転移性脳腫瘍を発見してほしい。ところが、転移性脳腫瘍のリスクの高いがん罹患した患者さんたちは、MRI（磁気共鳴画像法）などの画像検査でそれが見つかる大変ショックを覚えます。脳に病気が出ると自分が自分で居られなくなる、と思うのです。ただ、肺がん患者さんの場合は、脳転移が多いので主治医が脳の画像検査を考えてくれます。そのため、「まひや言語障害」「めまい」「視野障害」「けいれん」「頭痛」など、症状が出ていない時点で発見されるケースが多い。その段階であれば、ガンマナイフ治療は1時間以内の日帰りで終了。症状がないのは、転移性脳腫瘍が腫瘍だけで、浮腫もないからです。

転移性脳腫瘍は私たちが技術的に治すというより、患者さんががんに向かうという気持ちが大変重要です。患者さんは転移性脳腫瘍だと死ぬと思っていますが、私は虫歯治療くらいにしか感じていません。「大丈夫」と伝えて一緒に頑張る、それが最も重要だと思います。

（取材＝医学ジャーナリスト・松井宏夫）